

Aya

在宅Webライター

Portfolio

最終更新日:2026年4月20日

丁寧、誠実に。共感と検索意図を両立した文章をお届けします。

プロフィール

はじめまして。

在宅Webライターとして活動しています。自身の経験を活かした『育児と副業の両立』に関するコラム執筆や、企業案件での『VOD比較記事』など、読者のニーズに合わせた丁寧なリサーチと執筆を得意としております。

現在はクラウドワークスを中心に活動し、継続案件にも積極的に取り組んでいます。

丁寧なコミュニケーションと納期厳守を徹底し、安心してお任せいただけるライターを目指しています。

実績

- クラウドワークス評価: ★5.0(全13件中、すべて最高評価を獲得)
- コラム・エッセイ執筆: 3人の育児と副業(ライター活動)の両立をテーマにした実体験ベースの記事執筆
- 企業案件: VOD(動画配信サービス)の比較・解説記事の執筆経験あり
- アンケート・リサーチ: 複数件の納品実績

対応可能業務

- 記事執筆
- 体験談／エッセイ記事
- 子育て／主婦向けコンテンツ
- 構成作成から執筆まで対応可能
- SEO記事(検索意図設計／比較・解説記事対応)

サンプル記事

■サンプル記事①:

※本記事はnote掲載のエッセイをもとに、ポートフォリオ用として構成を整理したものです。

卒業式で感じた「ありがとう」と「ごめんね」のあいだ ― 母としての気づき

今日は、子どもの卒業式だった。

朝からどこか落ち着かなくて、
バタバタと準備をしながらも、気持ちは少し沈んでいた。

本当なら、笑顔で「おめでとう」って言ってあげたかった。
6年間よく頑張ったねって、ちゃんと伝えたかった。

でも私は、叱ってしまった。

つい2日前、先生に呼び出された。

卒業を目前にしての出来事に、正直驚いたし、呆れた気持ちもあった。

「どうして今なの」

そんな気持ちと同時に、
「ちゃんと叱らなきゃいけない」
親としての責任も強く感じていた。

息子は、正直手がかかる子だった。
何度も悩んで、そのたびに向き合ってきた。

だからこそ、最後くらいは
何も言わずに送り出したかった。

でも、それができなかった。

式が始まって、
整列する子どもたちの姿を見ながら、
いろんな感情が一気に押し寄せてきた。

もっと違う言い方があったんじゃないか。
あんなに強く言わなくてもよかったんじゃないか。

今日という日を、
もっとちゃんと噛み締めたかった。

気づいたら、涙が出ていた。

時を戻せたらいいのに。
そんなこと、できるはずもないのに。

現実には、そのまま進んでいく。

きっと私はこれからも、
母親として厳しくしてしまうと思う。

それでも

この気持ちは、忘れたくない。

後悔も、迷いも、全部抱えながら、
それでも子どもと向き合っていくしかない。

だから、今ちゃんと伝えたい。

ごめんね。
そして、ありがとう。

6年間、本当によく頑張ったね。

そしてこの出来事を通して、
改めて思った。

子どもに誇れる母親になりたい。

「ごめんね」と「おめでとう」を重ねながら、

後悔のない向き合い方を、これからも模索していきたい。

そう思いました。

■サンプル記事②：「待つ時間との向き合い方」

- ・ターゲット：子どものペースに振り回され、焦りを感じている親御さん
- ・狙い：「待つ時間」を「成長のための助走」と捉え直し、読者の心を軽くする

子育てをしていると、思うように進まない時間がある。
子どものペースで流れる毎日は、自分の予定通りにはいかないことも多い。トイレトレーニングの時期、時間を見ながら声をかけても「あとでいくね」「この遊びが終わったら」と言われることが何度もあった。

そのたびに私は「待ってるから、あとでちゃんと行こうね」と声をかける。

待った末にきちんとトイレに行けたとき、何度も褒める。その積み重ねの中で、私は気づいた。

子どもにとって、楽しい時間を中断してトイレに向かうことは、小さな決断なのだと。

「待つ」という時間は、その気持ちを整理するための大切な時間なのかもしれない。

私は、待つ時間は無駄ではないと思っている。
気持ちが動き、行動に変わるまでの大事な助走の時間だ。

だから私は、今日もほんの少しだけ待ってみようと思う。

■サンプル記事③：「“できなかった一日”の見方を変えた小さな習慣」

- ・ターゲット：育児優先で自分の時間が持てず、自己嫌悪に陥ってしまう方
- ・狙い：完璧主義を捨て、小さな「できた」に目を向けることで自分を肯定する

朝はやる気があったはずなのに、気づけば一日が終わっている。

子どもを優先して動く日には、思うように自分の時間が使えない。やろうと思っていた作業は後回しになり、「やりたかったな」という気持ちだけが、残る。

夜になると、「今日も何もできなかった」と、自分に小さなバツをつけたくなる。

そんなが続いたとき、私はやることを箇条書きにして整理するようになった。そして一日の中で、「これだけはやる」と決めた一つに印をつける。

たとえ一つでも終えられたなら、その日はもう“できなかった日”ではない。

大きく進まなくてもいい。
止まっていなければ、それでいい。

そう思えるようになってから、夜の自分に向ける目が、少しだけやさしくなった。

思うように進まない日も、子どもに向き合った時間も、どちらも私の一日なのだと、ようやく受け止められるようになった。